

湘北短大 ○本田雪子 東京家政大 神田和子 東京農工大 木下陸肥路

目的 和服の衿肩明き、および繰越し寸法、衿幅等は着る人の体型、着物の種類などを考慮して定めてよい寸法であると考え、前回は体型の異なる2人のモデルを選び、モデルに対して最も好まれる衿肩明き寸法と、繰越し寸法を官能検査によって見出した。衿肩明き寸法は、両モデルとも頸付根幅寸法と、衿肩明きの比率が75~78%の寸法が最も好まれた。そこで今回は前回と同様に、体型の異なる2人のモデルを選定し、前回最も好まれた上記の比率を採用して、上り衿肩明き、上り繰越し寸法を定め、衿幅寸法を変えた場合、パネラーによって最も好まれる衿幅寸法を、官能検査によって見出すことを目的としている。

方法 Aモデルは頸付根囲寸法40.2cm、頸付根幅寸法12.0cm、Bモデルは 付根囲寸法35.0cm、頸付根幅寸法11.5cmである。実験用浴衣は着装時の頸椎点から下り寸法 d_1 、頸側点から離れ寸法 d_2 をモデルによって定め、上り衿肩明き、上り繰越し寸法は上記の比率に従って算出した寸法を採用した。衿幅寸法は標準寸法の5.5cmを基準に ± 0.5 cmづつ寸法を変えて、1人について5枚の浴衣を縫製した。これらを規定の d_1 、 d_2 にしてモデルに着せ、背面、側面より撮影し、一定倍率で写真を作成し、和服構成の先生方と、経験者を対象に官能検査をおこなった。

結果 頸の太いAモデルは、狭めの衿幅が好まれる傾向にある。頸の細いBモデルは極端に狭い衿と、広い衿は順位が共通して低い。最も好まれる衿幅は、パネリストによって意見がわかれた。